

フードプロジェクト活動の課題と展望

山下 浩子・眞部 真紀子・山村 涼子
脇本 麗・石井 妙子・江越 和夫
眞谷 智美・高松 幸子・林田 理恵

Challenges and prospects for food project activities

YAMASHITA Hiroko, MANABE Makiko, YAMAMURA Ryoko ,
WAKIMOTO Rei, ISHII Taeko, EGOSHI Kazuo,
MAMIYA Tomomi, TAKAMATSU Sachiko and HAYASHIDA Rie

“Food projects” are an activity to support and solve the various issues facing the local community from the perspective of “dietary education” . At our university, students will independently discover issues and consider and implement solutions in cooperation with the government and local companies throughout the two years of the specialized education subjects “Food project I/II/III/IV” (graduation requirement/exercises/1 unit each). We expect the students to enhance their self-improvement and expertise with these activities and to become nutritionists that can meet local needs.

This report will be reporting on recent efforts. In 2020, we also responded to the new issue of activity restrictions due to the spread of the novel coronavirus infection.

Key words: Dietary education project, local participation, dietitian, active learning

キーワード：食育事業、地域参画、栄養士、アクティブ・ラーニング

はじめに

久留米信愛短期大学は 2004 年、文部科学省より、地方都市における地域参画型短期大学教育の実績が認められ、「特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）」に採択された。当時、

事業実施計画の 1 つに「地元メディアを活用した情報発信・研究発表プログラムの開発」を挙げ、2 年次に開講される「卒業セミナー（ゼミナール）」の中で取り組んできた¹⁾。

フードデザイン学科では、2017、2018 年度入学生のカリキュラム変更を経て、本取り組みを「フードプロジェクト」と位置づけ、入学時から 2 年間、全学期を通して展開している^{2) - 4)}。著者らは、その活動内容や学修成果について、本学研究紀要^{5) - 12)} に発表してきた。

本報では、「フードプロジェクト」活動における地域参画への取り組み、及び課題と展望について述べる。

I 目 的

「フードプロジェクト」活動を振り返り、科目の目標が達成されているのか、その課題を明示し、併せて今後の展望について考察する。

II 取り組みの内容

1. 科目の概要

本学科専門教育科目「フードプロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(卒業必修・演習・各1単位)(以下、「プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」という。)はそれぞれ、Ⅰ・Ⅱを1年次前・後期、Ⅲ・Ⅳを2年次前・後期に開講し、各科目の目的・学習目標に沿って活動する。

また、各科目は、アクティブ・ラーニングの手法を用いて、地域の「食」に関する課題発見、課題解決のための企画を立案、実行、評価、改善するPDCAサイクルで進めていく。

2. 科目の目的

地域社会が抱える様々な課題について、主に「食育」の視点から、食支援活動を中心に各課題解決に取り組む姿勢を培うことを目的とする。

3. 学習目標

学生が主体的に研究課題を設定し、地域社会と連携した活動を行うことにより、自己研鑽力及び栄養士としての専門性を高めることを目指している。プロジェクトⅠ～Ⅳの各目標はつぎのとおりである。

プロジェクトⅠ：行政や地元企業など関係各所の方から、地域社会が抱える「食」に関する様々な課題についてその現状を学ぶ。課題解決を図るための研究を行い、解決策を提案するポ

スターを作成し発表する。

プロジェクトⅡ：専門家による「食」の安全性及び循環についての講義を踏まえ、地域の要請に合った献立を作成する。また例年12月の一定期日に市街地商店街に出店する「信愛クリスマスショップ」の計画立案を行い、当日はショップにおいて地域の方々と交流する。1年次後期の終盤には、プロジェクトⅠ・Ⅱのまとめを行い、報告資料を作成する。また2年次のプロジェクトⅢの初期に、プロジェクトⅠとの合同授業にて実施する、活動報告会のプレゼンテーションの練習を行う。

プロジェクトⅢ・Ⅳ：プロジェクトⅠ・Ⅱで実施した、地域の「食」に関する課題理解及び解決策の研究・活動を基に、1年間の研究課題を設定し、計画・実行・評価を行う。その成果は活動報告会にて発表する。また、プロジェクトⅠ～Ⅳの2年間の活動について、報告書にまとめる。

4. 活動内容

1) 活動期間

2017-2020 年度 (4 年間)

2) 協力団体等

フードプロジェクトにご協力及びご支援いただいた団体等はつぎのとおりである。

久留米市 (子ども未来部, 農政部, 環境部)
久留米市商工会議所
久留米ほとめき通り商店街
久留米菓子協同組合
菓子舗古賀庄
生活協同連合会グリーンコープ連合
久留米リハビリテーション病院
株式会社ハイマート
株式会社グラノ 24K「ぶどうの樹」
株式会社GK・ファーム
株式会社彩光コーポレーション
特定非営利法人わたしと僕の夢
久留米信愛幼稚園
食と健康の和協議体 (特定非営利法人栄養ケア・ちっこ, 久留米信愛短期大学, 柳川市聴覚障害者協会)

3) 地域参画事業等

フードプロジェクトが参画した事業等はつぎのとおりである。

くるめフォーラム (2018, 2019 年度)
くるめ食育フェスタ 2019
久留米市民大感謝祭市場まつり(2018, 2019年度)
食の循環体験事業『エコ・クッキング教室』(2018, 2019 年度)
くるめ菓子祭り『うまかつ祭』(2018, 2019 年度)
冬めくあったかクリスマスバル(2018, 2019 年度)
KURUME こくさいデー 2018
久留米リハビリテーション病院地域連携事業「久留米市やまもとのまちづくり」(2019 年度)
久留米市内 5 大学連携によるオープンキャンパス～学生によるこども向け講座～(2018, 2019 年度)
青少年のためのサイエンスモール in くるめ2020
ふくおか地域貢献活動サポート事業『食を通して広げよう健康の和～聞こえる人・聞こえない人みんなの健康の輪～』(2018-2020 年度)
信愛ひらくフォーラム (2018 年度)
久留米信愛短期大学公開講座 (2019, 2020 年度)

4) 活動状況

プロジェクト I～IVにおける、主な活動はつぎのとおりである。

プロジェクト I:

①地域の課題発見

久留米市子ども未来部から「久留米市における子どもの食生活の実態」、農政部から「久留米の農業」、「くるめ食育推進プランの取り組み」について、特定非常利法人わたしと僕の夢から「子どもの学習・生活支援など活動内容」について、それぞれ講義を受ける。

②課題解決策の検討・発表

前述の講義を受けた後、グループに分かれて、とくに「子どもの食の課題」について、課題解決策を発想法の 1 つである KJ 法で検討・提案し、ポスター発表を行う。発表は 2 回に分け、1 回目は授業内にてグループ発表及びディスカッションを行い、2 回目は後期：プロジェクト II の活動において「くるめフォーラ

ム」(久留米市主催、10 月開催) に参画し、本学のブースにて展示及び説明を行う。

プロジェクト II:

①レシピ考案

生活協同連合会グリーンコープ連合より「食」の安全性及び循環について講義を受ける。その後、当会との協力事業である「提示される商品食材のレシピ考案」に取り組む。採択されたレシピは、商品カタログ誌に掲載されるため、調理の取材・撮影に対応する。

②「エコ・クッキング教室」担当

久留米市環境部から「食」の循環について講義を受け、「食品ロス削減」に向けて、グループ学習にて「エコ・クッキングレシピ」を提案し、この中から食の循環体験事業「エコ・クッキング教室」のメニューを決定する。また、久留米市の小学校区で児童を対象に開催されるクッキング教室を学生主体で実施する。

③「信愛クリスマスショップ」出店

例年 12 月の一定期日に久留米市街地商店街に出店する「信愛クリスマスショップ」の計画立案をグループ活動にて行う。ショップでは、これまでに取り組んだ商品開発の成果品『ココナッツドーナツ』(株式会社グラノ 24K「ぶどうの樹」、2017 年より販売)と『くるめ信愛菓』(菓子舗古賀庄, 2018 年より販売)、日本各地の修道院製造の菓子に加え、学生自ら摘果、加工した『あまおうソース』を販売する。『あまおうソース』は、販売価格の一部(約 1/3 額)をユニセフ募金に協力することとし、購入者より直接募金箱に入れていただく。

プロジェクト III・IV:

①レシピ考案

地元企業より協力依頼のあった「指定食材を利用した料理や菓子レシピ考案」に取り組む。2020 年度は『久留米松きのこ』(株式会社 GK・ファーム)、「ヒシ粉」(株式会社彩光コーポレーション) のレ

レシピを提案した。レシピは各企業で精査され、『久留米松きのこ』は消費者向けの参考レシピに、「ヒシ粉」は商品販売における菓子店舗への参考資料として活用される予定である。

②くるめ菓子祭り『うまかつ祭』への参画

『うまかつ祭』（久留米菓子協同組合主催、5月開催）参加店舗の「店舗紹介ポップ」作成、当日の販売補助及び「和菓子教室」準備・指導補助などを担当する。

③久留米市主催イベントへの参画

例年11月に開催される「久留米市民大感謝祭久留米市場まつり」、「くるめ食育フェスタ」の本学ブースにおいて、プロジェクト活動の報告や食育に関するポスター展示、開発商品菓子の販売などを行う。

④久留米リハビリテーション病院地域連携事業「久留米市やまもとのまちづくり」への参画（2019年度）

本事業では、当事業担当者として3回の授業と打ち合わせを行った。1回目は事業の目的や概要について学んだ。2回目は施設見学を行い、現地の状況を学んだ。その後、グループに分かれてまちづくりの企画立案を行った。3回目の授業で各グループより複数の企画発表を行い、当事業担当者との全体協議を経て、『信愛カフェ』、『収穫祭』の2つのイベントの実施を決定した。両イベントは2グループに分かれて担当し、企画・準備・実施に至るまで学生主体で行った。

⑤食と健康の和協議体による「食育講座」ボランティア

当協議体による、ふくおか地域貢献活動事業「食育講座」において、食育展示の企画・実施、調理実習ボランティアを行う。

⑥本学公開講座「みんなの食育Ⅲー手作りを楽しむ」への参画

本講座内の1講座を担当し、企画立案及び実施に至るまで、学生主体で行う。

また、他の講座にも実習補助として携わった。

Ⅲ 課題と考察

フードプロジェクトの目的は、地域社会が抱える様々な課題について、主に「食育」の視点から、食支援活動を中心に各課題解決に取り組む姿勢を培うことである。学生が主体的に研究課題を設定し、地域社会と連携した活動を行うことにより、自己研鑽力及び栄養士としての専門性を高めることを目指している。

フードプロジェクトの科目は、2017年度入学生カリキュラムより導入した。まず2017年度は1年次後期及び2年次前期に開講し、2年次後期は「卒業セミナー」でこの活動を継続した。その後2018年度入学生から、1年次前・後期、2年次前・後期の4学期間を通して活動を展開している²⁾⁻⁴⁾。

フードプロジェクトの課題は3つある。

第1課題は、科目の目標が達成されているかを判定するための、学習成果の可視化を行うことである。学習成果の可視化については、本学研究紀要^{5)-7), 11)}に発表したように、ルーブリックを用いた学習成果の測定では、学生の自己評価に差があること、また、学生個人によって学習成果の習得感も異なっていることから、一定の評価（可視化）に至っていないと考える。今後は、学科のディプロマ・ポリシーと照合した測定を検討していく必要がある。

第2の課題は、科目の目標に達するために、アクティブ・ラーニングの手法を用いて、学生自ら課題発見をし、課題解決のための活動及び研究計画を立案、実行、評価、改善するPDCAサイクルが回しているかである。プロジェクトⅠ・Ⅱにおいて、各関係団体より地域の「食」関連の実態について学ぶ機会を得ているが、学生が自ら課題を発見し、その解決に向けてPDCAサイクルを回していくためには、筆者ら学科教員の教育力向上が必須と考える。

第3の課題は、2年間の活動期間における、定期及び単発活動の実施計画（活動）の各科目への振り分けをどのように行うかである。定期

活動は各科目への振り分け、実施計画の予定を立てられるが、単発活動は年次や学期に偏りがないよう振り分けることが必要となる。活動内容によっては、1、2 年生共同で実施することもある。また、現状では、著者ら教員が外部の関係団体からの依頼・提案の窓口となっており、学生自ら課題発見のための行動を起こす機会を得られていない。

さらに、2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大という未曾有の事態となったため、行政をはじめ各団体の地域活動のほとんどが中止となった。このため、地域に出向いての活動はできなかったが、関係団体への考案レシピや店舗ポップの提供活動は継続した。また、例年実施している児童向け「エコ・クッキングレシピ」を一般向けに変更し、オンラインで配信するための動画撮影に取り組んだ。今後も、新型コロナウイルス感染症に対応し、新しい生活様式に沿った活動に取り組んでいかなければならないと考える。

ま と め

「フードプロジェクト」とは、地域社会が抱える様々な課題について「食育」の視点から支援、解決する活動である。本学では、専門教育科目「フードプロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（卒業必修・演習・各 1 単位）の 2 年間を通して、学生が主体的に課題を発見し、行政や地元企業等と連携して解決策を検討、実施する。学生には、この活動により、自己研鑽力と専門性を高め、地域の要請に応える栄養士となることを期待している。

本報では近年の取り組みについて報告する。また、2020 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大による活動の制限という新たな問題にも対応した。

謝 辞

本事業にご協力・ご支援をいただいた久留米市、久留米商工会議所関係者各位、地域の関連団体・企業の皆様に心より御礼申し上げます。

参考資料

- 1) 卒業セミナー報告書 No. 1 - 15, 久留米信愛女学院短期大学健康栄養学科 (現フードデザイン学科), 2004 - 2018 年.
- 2) チャイルドプロジェクト・フードプロジェクト報告書 No. 1, 久留米信愛短期大学幼児教育学科・フードデザイン学科, 2019 年.
- 3) フードプロジェクト報告書 No. 2, 久留米信愛短期大学フードデザイン学科, 2020 年.
- 4) チャイルドプロジェクト・フードプロジェクト報告書 No. 3, 久留米信愛短期大学幼児教育学科・フードデザイン学科, 2021 年.
- 5) 眞部真紀子・山下浩子・江越和夫・石井妙子・山村涼子・生地暢・岡輝美・眞谷智美・高松幸子:「学生の成長」可視化のこころみ (1) —フードプロジェクト活動を通して—, 久留米信愛短期大学研究紀要, 41, 35-42, 2018 年.
- 6) 江越和夫・石井妙子・山村涼子・安保康治・眞部真紀子・山下浩子:「学修成果の可視化」に向けての調査研究, 久留米信愛短期大学研究紀要, 42, 39-47, 2019 年.
- 7) 眞部真紀子・山村涼子・岡輝美・眞谷智美・高松幸子・山下浩子:「学生の成長」可視化のこころみ (2) ～ループリックの評価項目の再考について～, 久留米信愛短期大学研究紀要, 42, 49-55, 2019 年.
- 8) 山下浩子・山村涼子・眞部真紀子・石井妙子:聴覚障害者を対象とした料理教室の取り組み—地域貢献活動に参画して—, 久留米信愛短期大学研究紀要, 42, 69-73, 2019 年.
- 9) 山下浩子・内野香・眞部真紀子・高松幸子・山村涼子:くるめ信愛菓—地元和菓子店と学生の協働による新商品の企画・開発—, 久留米信愛短期大学研究紀要, 42, 75-78, 2019 年.
- 10) 山村涼子・眞部真紀子・眞谷智美・高松幸子・山下浩子:フードプロジェクト活動の報告～調理学の観点から～, 久留米信愛短期大学研究紀要, 42, 79-84, 2019 年.
- 11) 眞部真紀子・山下浩子・山村涼子・石井妙子・安保康治・江越和夫・岡輝美・眞谷智美・高松幸子:「学修成果の可視化」に向けて, 久

留米信愛短期大学研究紀要, 43, 15-21,
2020年.

- 12) 山下浩子・内野香・山村涼子・眞部真紀子・
眞谷智美・高松幸子:「信愛ひらく 食育・
保育教材」の開発, 久留米信愛短期大学研究
紀要, 43, 39-44, 2020年.